

小学校との連携
社会福祉法人 大野町保育園（石川県金沢市）

実践（A）大野町小学校2年生との自然体験活動

参加幼児、児童	5歳児きりん組 2年生児童
指導者 及び 補助	野外教育事務所 森江 章先生 小学校 教職員 4名 保育園 保育士 2名 補助2名
活動日時	7月6日 9:30~10:30



- 1、ねらい ・自然の豊かさ、素晴らしさ、不思議さを感じ、自然の仕組みが分かる。
 ・人と人との関わりについて体験する。

2、活動名 大野の森のジャングル探検

3、内容

（1）森の動物さがし

単 位	グループ活動	場 所	トトロの森一帯	時 間	20分
方 法	森の中にある自然物(落ち葉、小枝、石、樹影)が動物の体や頭に見えるものを一人ひとりがさがし、グループでそれを共有する。				
指導及び援助	子ども達の発見がグループで共有できる雰囲気をつくる。安全管理に配慮する。				

（2）ミクロハイク

単 位	個人活動	場 所	大野弁吉碑周辺	時 間	10分
方 法	土壌(地表)にうごめく虫の動き、草の形を虫めがねという視界を拡大する道具を使い、地表の小さい旅を楽しむ。				
指導及び援助	指導者もミクロの旅を楽しみながら、児童の安全管理をする。				

（3）森のレストラン

単 位	グループ活動	場 所	トトロの森一帯	時 間	20分
方 法	グループで、誰に何の食事(例えば、ありさん用の晩ご飯、笹のお皿に黄色い色の葉っぱがオムレツ、まつぼっくりがミートボールのような…)について相談して決める。グループで自然の物を利用してイメージした食事をつくる。				
指導及び援助	指導者も楽しみながら、子ども達の食事作りを支援する。				

4、活動結果

6月、事前に小学校へ訪問、仲良しグループで活動を行った。最初はぎこちなかったが、時間をかけずに解け合うことができた。当日各グループで2年生がリーダーになり、グループ全員で園児の世話をすることを意識し、言葉がけなどの言動が見えた。また、人と人との関わり大切さや難しさを感じとっていたようだった。これからも活動を継続しながら子ども達の意識の育ちを見守っていきたい。異年齢で互いに遊び、互いに共有する事など今後の課題として残った。

それぞれが虫めがねの使用を試みた。2年生が虫めがねの使い方など、手を持って教えてくれたことの喜びの表情が印象的だった。また、拡大して見えるミクロの世界を垣間見た喜びや、詳しく見ることの面白さ、大切さを感じているようだった。虫めがねの使い方を指導していくことで、5歳児には観察する道具としてこれからも使用させたい。大野の森は子ども達にとって親しみのある場所である。「いつでも」「どこでも」子どもの手と足で、体全体でふれあうことができる場でもある。十分な時間を保証し、興味・関心は自然がかならず与えてくれる。小学校との連携の活動内容

を工夫しながら「今日は目、耳、手、足、頭を使って勉強したから、いっぱい楽しかった」と言える子ども達を育てていきたい。

5、2年生とのなかよしグループ活動計画表(2年生との交流)

6月	7月	8月	9月	9月	11月	2月
2年生 こんにちは	大野の森の ジャングル探検	2年生と プールで遊ぼう	2年生と くずつるで遊ぼう	トトロの 森の探検隊	秋祭りを 楽しもう	もうすぐ1年生 学校訪問

実践 (B)

本時の活動	トトロの森の探検隊	対象年齢	5歳児
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分達が、いつも見たり遊びに使ったりしている葉っぱが、工夫することで遠くへ飛んだり面白い動きをしたりすることに気づく。 (交流)2年生との活動を楽しむ中で自分たちもしてみようと、作ってみようとする。 		
準備	<ul style="list-style-type: none"> 草と葉っぱのカードと絵地図を作っておく。 森の中の草木とカードに書いた内容を確認しておく。 学校と連絡をし合う。 		
持ち物	<ul style="list-style-type: none"> 絵地図、草のカード、宝箱(各グループに3個ほど) 時計、お茶 ホッチキス、クリップ、笛、ハサミ、救急用具 各グループのプラカード 		

大野町小学校2年生の展開

本時の学習

(1) 題目 トトロの森の探検隊

(2) 本時のねらい ・やすらぎの林で見つけたいろいろな葉を使って「草飛ばし」の遊びを工夫し、グループで遊びを楽しむことができる。

(3) 本時の交流について

2年生がいつも教える立場とか世話をする立場とかにしているのではなく、ともに活動する中で年長児が支援を必要とするときに手を差し伸べるような自然な交流にしたいと考えている。

そこで、広場で行う「草飛ばし」では、2年生も年長児も共に十分に活動する時間を保証したい。十分に活動する場があれば、グループの中で、教えてあげたり作ってあげたりする2年生の姿が見られることが期待される。また、できたもので競争して遊び、さらに工夫して遊ぶ活動の深まりも考えられる。教師は期待する活動が生まれるように、指導していきたい。

活動の結果

- ・2年生との活動は何回か行っているので、互いにうち溶けたり手伝ってくれたことに喜んだりするなど、人と人との関わりや、共感の姿が見られるようになってきている。
- ・2年生の工夫していることに興味を示し、自分も真似て工夫しようとする姿が見えた。
- ・葉っぱだけではなく、トトロの森の自然物を使い、工夫して作る楽しさや作って遊ぶ楽しさなどの活動をこれからも取り入れていきたい。

みどころ

この事例では、幼児も小学生も、自然の中で目的を持って活動に取り組むというねらいをもって進められています。その取り組みの中に、幼児と児童がかかわり合う時間と環境が確保されるように、指導の工夫がされています。まず、幼児と児童が事前にかかわり仲良しグループで活動を行いました。そこでお互いが打ち解け合って自然にかかわり合いがもてるようになっていきました。また、継続的に繰り返し交流活動をする計画を持って実践しています。そのため、分かったことや思いを共有することができるようになっていきました。このように、幼児も児童もそれぞれが主体的に保育や授業のねらいに沿った豊かな体験や学習ができる十分な時間がある活動で、かかわりを持った同士が、体験したこと、分かったこと、感じたこと、味わったことを共有したので、体験したことを深く実感することができます。保育者と教師間で連携を密に図り、「人と人とのかかわり」にともなう体験も意図して実践したことは、仲良しのグループの互いのつながりを深めたばかりでなく、人と人のかかわる力を養うことにも結びついたのであります。